

2025 年度「ひろしまコミュニティ基金」応募用紙_様式 2

「団体名」 特定非営利活動法人 グリーンラインを愛する会

「活動名」 広島県立後山公園、猪被害抑止フェンス設置事業

「事業報告」

この事業は福山グリーンライン沿線にある「広島県立後山公園」において、長年イノシシの被害により来園者の利便性のみならず安全までもが脅かされ続けてきた問題の解決のために、2023 年から着手した事業です。2025 年度も 1 月から 5 月までフェンスの設置を行い、その後も補修や保全の作業を継続しています。

事業開始前の後山公園はまるで畑のような状態で、一年中本会が大変な費用と労力をかけて復旧作業を繰り返していました。もちろんそれだけでなく、市販のイノシシ忌避剤や、クレゾール石鹼液の忌避剤を設置するなど様々な対策を試行しましたが、結果は芳しいものではありませんでした。

もちろん広島県もこの状況は把握しておられましたが、「展望台や遊歩道などの補修すらままならないのに、そんな事業予算の捻出は不可能。」との事で、「本会スタッフが足を捻挫」「来園者が本会スタッフの眼前で転倒する」「昼間にイノシシが園地内に現れる」など、状況はますます深刻になってゆきました。



真昼間 イノシシ徘徊

後山園地 新展開



そこで本会は「コメリ緑育成財団」はじめ支援組織に資金的な支援を要請するとともに、行政に対して「本会が事業主体となって、県立公園でのフェンス設置をしたい。」との要請を行いました。

しかし、広島県からは「通常であれば占用許可をすることになるが、この場合は毎年占用料を負担してもらう事になる。」「園地内でフェンス設置工事を民が行うという例がなく、どのような手続きをしてもらうかが決まらない。」「このような事例で民間に事業を認めた例がない。」との回答で、事業は頓挫しかけました。

2025 年度「ひろしまコミュニティ基金」応募用紙_様式 2

其の後「福山市」「広島県」「環境省」と折衝を重ね、「市議会議員」「県議会議員」「報道関係」等の支援を得ながら約半年の紆余曲折の後に、ようやく行政手続きの一連の流れが確定し、事業着手に向けて動き出すことが出来ました。しかしいざ工事に着手しようとする設置場所の登記が市で、しかも道路敷きであったり、県ではあるが公園用地ではなく道路敷だったりと様々なトラブルが続き、「工事よりも着手までの期間が長い」状態でしたが県・市と協力して何とかクリアしました。



こうして 2023 年から約 800m の園地周辺にフェンスを設置し、ようやく 2025 年度に完成しました。5 月の完成以降も監視カメラで猪の侵入が無いかを監視し、フェンスの補修を行っています。



既に 10 か月を経過しようとしていますが、イノシシの侵入をほぼ完全に抑止できています。来園者からも「きれいで安全な公園になった」と喜ばれ、環境省・広島県・福山市からも「大変困難な事業であったが、あきらめずにやり遂げてもらえてありがたい。」「民が公共の場所で、行政に代わって公共工事を行う際の行政手続きについて道を付けてもらえた。」と嬉しい言葉をいただいています。

2025 年春に開通した「鞆未来トンネル」の効果もあり、来園者も目に見えて増加しています。

今後も「できないと言われることにこそ、やるべき価値がある」との信念のもと、地域の課題に行政と協働連携して、取り組んでゆきます。

